

平成20年5月
 平成23年～
 平成29年5月
 平成29年12月～
 平成30年1月
 平成30年5月
 平成31年1月
 平成31年3月

大野北地域まちづくり提言書（全9回の地域まちづくり会議や地域説明会の開催を経て提出）

大野北地区まちづくり懇談会で意見交換

各団体等へ事業スキーム（枠組み）の説明、各施設利用者アンケート（5月～11月）

淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）公表、パブリックコメント

- ・複合施設などに関する市民参加型ワークショップ（全3回）
- ・鹿沼公園でのオープンハウス（全2回）
- ・淵野辺駅利用者に対するウェブアンケート調査
- ・市民説明会・個別説明会の実施(全9回 延べ約530人参加)

パブリックコメント結果公表

市民説明会などで今後の対応を説明

- ①検討組織の設置、②複数の検討パターンの提示、③市民などへの追加説明

基本計画（案）に対するパブリックコメントで頂いた主な意見と計画への反映

【パブリックコメント結果の概要】
 ○意見募集期間：平成29年12月7日（水）～平成30年1月31日（水）
 ○意見の提出数：352人（914件）
 ア：計画案等に意見を反映するもの（216件）

主な意見の概要	基本計画に反映する内容
・今の計画は広く市民の声を聞いたとは思えない。近隣住民と各分野の専門家と一層に計画をつくってほしい。	反映① 検討組織の設置 具体的な内容について、市民や施設利用者、有識者による検討組織を設置
・示されているスケジュールでは行き過ぎると感じる。慎重に取り組んでいくと共に、今までの検討経過を公開してほしい。	
・計画案のように全てを売却する場合や、図書館の位置に複合施設を建設し、駐車場や駐輪場を公園内に整備し共有する場合など複数の案を用意し、予算や経費の算出をして提示して市民の理解を得る努力をする必要があると考える。	
・「にぎわいゾーン」について詳細が分からず具体的なイメージが湧かないので、魅力を強めたい。居場所などが出来て南口が繁華街になることは望みません。	反映② 複数の検討パターン 複数の検討パターンについて、基本計画に記載
	反映③ 説明の追加 市民の不安や懸念に対して、説明が不足していた事項などについて、基本計画に説明を追加

イ：意見の趣旨を踏まえて取組を推進するもの（285件）

- ・政令指定都市にふさわしい、相模原の文化・知性の中心となるようなすてきな公共施設が整備されることを望みます。
- ・児童交通公園は、子どもにとって強い勉強の場になっているので、ぜひとも残してほしい。
- ・野球場はそのままで、予約が入っていないとき(平日の昼間)は解放すれば、安全で子どもたちが遊べると思いました。利用者の数が少ないと言う意見も解消すると思います。

ウ：今後の参考とするもの（413件）

- ・児童交通公園をなくすなど、子ども達がのびのび遊べる場所をなくすのは反対です。今の素朴な鹿沼公園をそのまま残してほしい。
- ・民間に売ったあと、パチンコ屋や居酒屋になってしまったらどうなるのが心配。

今後の取組について

今後は、パブリックコメントで頂いた御意見等を踏まえ、
新たに検討組織を立ち上げるとともに、
 当初の事業手法以外にも、
複数のパターンについて、
 利用者の利便性向上、財政負担などの視点から検証し、
最も効果的な事業手法を検討してまいります。

事業手法の検討に当たっては、
 いくつかの例を示しますが、
これらのパターンにこだわることなく、
より効果的な事業手法のアイデアが出た場合には、
導入について、積極的に検討していきます。

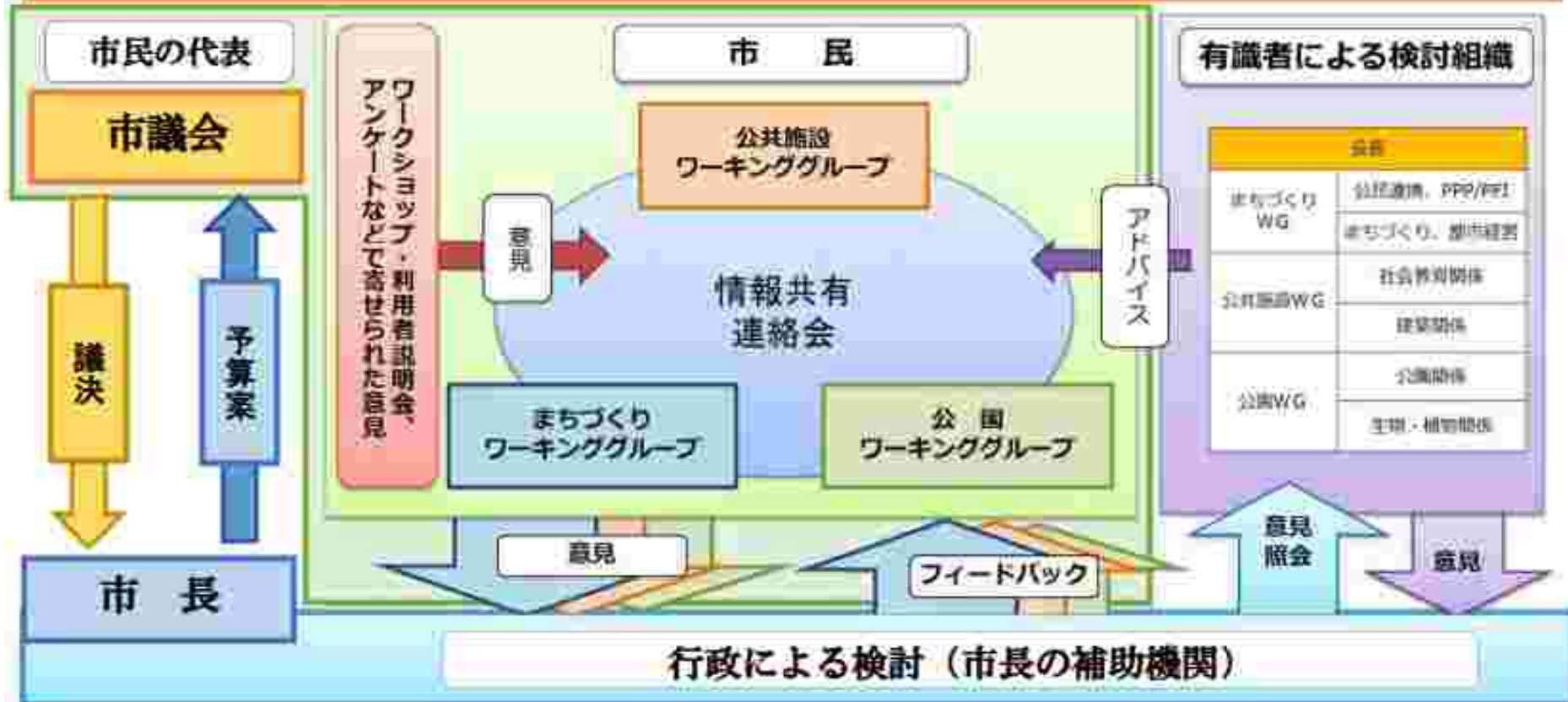
市民検討会と有識者協議会の立ち上げ、検討を開始



市民検討会の位置づけと行政との関係性について

第6回市民検討会資料より

市民検討会は、それぞれの分野に関係する方や公募の方の参加の下、自由な意見を出して頂くことを目的に設置。有識者は、市民検討会をサポートし、市からの照会等に専門的な見地から意見を頂戴することとしている。



検討に当たって、**市民検討会が重要な役割を担っていると考えているが**、有識者協議会からの意見のほか、**広く市民意見を聴取し「次世代に引き継ぐまちづくり」**について、市長の補助機関である行政がまとめ、**市長が決定し、市民や議会に対して説明責任を果たさなければならないもの**と認識している。

市民検討会のこれまでの検討状況（第1回～第7回）



市民検討会

分かったこと

確認したこと

STEP1

委嘱式
(キックオフ)

STEP2

淵野辺駅南口周辺の
現状・課題把握

STEP3

事例の把握・
まちづくりの
アイデア出し

STEP4

まちづくりの
アイデアの検討

STEP5

まちづくりの
方向性決め

○淵野辺駅周辺の魅力を共有した。

⇒現在の淵野辺のまちに高い**愛着**を持っている。

○淵野辺駅南口周辺の現状・課題把握を行った。

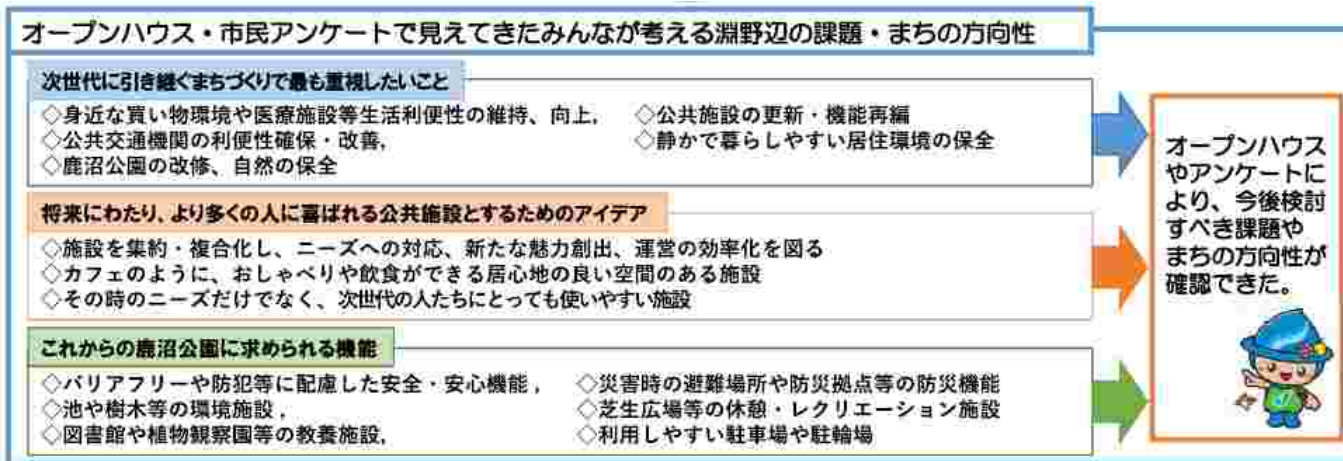
- ・まち歩き ⇒ 施設の**老朽化**、時代の変化等に合っていない。
- ・施設運営・利用状況 ⇒ 施設の連携や、**ひとのつながり**がポイント。
- ・まちづくりに関する講演 ⇒ 未来を見据え、市民が主体的にまちづくりに関わる**ことが重要**。
- ・次世代を見据えた課題解決のための**アイデアが必要**。

○課題解決のためのアイデア出し、キーワードの共有を行った。

⇒良いものは残しつつ、悪いものは更新し、これからの時代のニーズに合わせる必要がある。

○市民検討会のアイデアをもとに市民意見を聴取し、淵野辺の課題・まちの方向性を共有した。

「鹿沼公園と公共施設を生かしてまちの魅力UP」



○事例の把握を行った。

- ・公園に関する講演⇒公園成立のプロセス、景観形成に係る要素（自然・利用する人々・周辺環境・時間経過）、震災で経験したまちづくりの場としての価値の事例。
- ・施設に関する講演⇒「アクセスの良さ」、「活動の視認性」、「施設同士の融合」に着目した国内外の事例。建築の形式や周辺環境との関係によって、次の世代をどう豊かにするのか。

○これまでの経過、パブコメの意見反映状況、地域課題、公共施設の現状、検討組織の目標

○市の現状（人口減少、財政状況、公共施設マネジメント:全ての施設をこれまでと同様に維持していくことは厳しい）

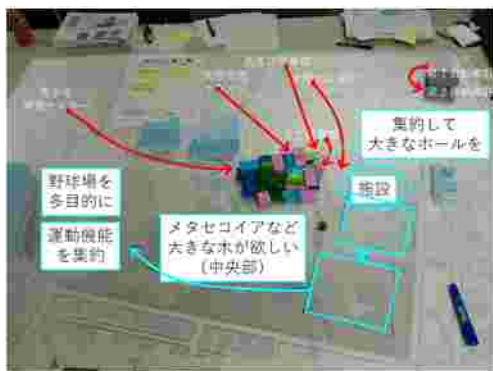
○公共施設の検討条件（施設の総量削減、未利用資産の活用、法令の制限（建築ボリューム・日影）、サービスの継続等）

市民検討会のこれまでの検討状況（第8回・第9回）

STEP 4 まちづくりのアイデアの検討

第8回市民検討会（R1.12.21）

○施設や機能の配置・組み合わせを検討した。⇒ブロックを使用したグループワークで、**18の検討案**が出された。



第9回市民検討会（R2.1.25）

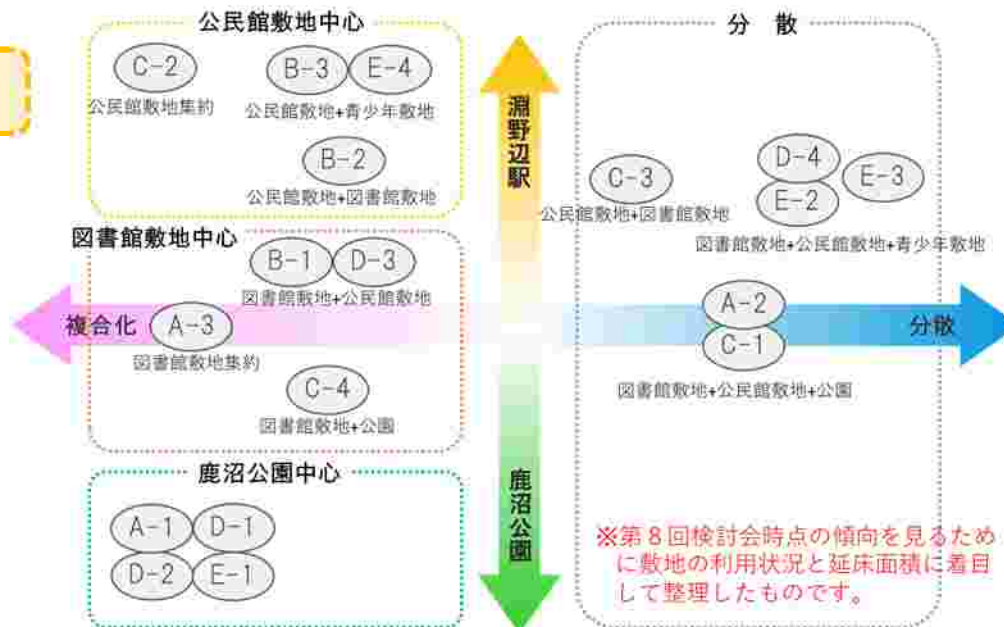
○検討案を**4つの検討パターン**に類型化・グループ分けを行い、まちの魅力向上のためのアイデアを磨き、どのように実現するかを検討した。

分散パターン

鹿沼公園中心パターン

図書館敷地中心パターン

公民館敷地中心パターン



第10回市民検討会（R2.2.29⇒コロナで延期）

「5W1Hアイデアカード」を作成し、セールスポイントや課題を整理

市民検討会のこれまでの検討状況（第10回）

第10回市民検討会（R3.1～R3.3 書面開催）

○公共施設や機能の配置の組合せで類型化した**4つの検討パターン**ごとに、それぞれの特徴となるセールスポイントや課題等について、書面によるやり取りを重ねながら整理した。

市民検討会 まちづくりのアイデア 〈現在地維持パターン〉
アイデアの要点
<ul style="list-style-type: none"> 公共施設は、現在の位置を基本とし、既存の建物を修繕やリノベーション又は建築により、機能の維持・改善を行う。 公園は、現在の魅力の維持を基本とするが、図書館との一体的な利用や野球場を用途転換し、誰でも気軽に遊べる広場や噴水施設を新たに整備する。 まちは、現在の構造を大きく変えず、駅前から公園に至る緑地の緑地がな景観の保全・育成や自転車を活かしたまちづくりをする。
セールスポイント
どうして？Why・誰が喜ぶ？Who
<ul style="list-style-type: none"> 現在の環境（施設・公園・まち）を維持・改善すると、駅から近いことによる利便性の維持ができ、地域住民・公共施設利用者が喜ぶ。 計画・建築費のリスク分散ができ、地域住民・公共施設利用者が喜ぶ。 公園内に一年を通して誰もが遊べる広場や、子育て世代が喜ぶ施設があると、誰でも気軽に遊べる。公園利用者・子育て世代が喜ぶ。 特色・魅力ある駅前から公園へのつながり、まちと公園の一体性による魅力をアップすると、地域住民・公園利用者・駅利用者・来訪者が喜ぶ。
課題
<ul style="list-style-type: none"> 修繕（修繕・リノベーション・修繕費、修繕期間・修繕費など）の確保 老朽化対策として修繕・リノベーションが適切か（耐用年数を考慮） 修繕・リノベーションでは修繕の形などが限られるため、ニーズの平等性を解決できるか 公園が抱えている課題（老朽化、安全対策）の解決と整備費の確保 公園が変化の中で、現在のまちの環境を現在のまま維持する困難さ

市民検討会 まちづくりのアイデア 〈鹿沼公園中心パターン〉
アイデアの要点
<ul style="list-style-type: none"> 公共施設は、鹿沼公園を中心に集約・複合化することで、公園や各施設を一体的に活用するとともに、管理の効率化を図る。 鹿沼公園は、現在の魅力を活かしつつ、公共施設整備に合わせて一体的な再整備を実施する。 駅から公園への動線のバリアフリー化や交通動線の整理等を実施し、鹿沼公園を中心としたまちづくりを行う。また、公共施設の跡地は、売却等による事業費の削減を図るほか、駐車場や駐車場としての活用を検討する。
セールスポイント
どうして？Why・誰が喜ぶ？Who
<ul style="list-style-type: none"> 様々な施設が集約・複合化されることにより、特に高齢者等の利用者の利便性が向上するほか、維持管理費を削減できる カフェ等の施設を併設しにぎわいを創出することで、施設・公園利用者が喜ぶ 仮設の公共施設を設置することなくサービスの確保が可能のため、既存の施設利用者が喜ぶ 公共施設の跡地を売却することにより事業費が削減できるほか、まちのにぎわいを創出できるため、地域住民が喜ぶ 老朽化している公園施設（遊具や施設）も併せてリニューアルすることができるため、高齢等の公園施設利用者や高齢の利用者が喜ぶ
課題
<ul style="list-style-type: none"> 既存の公園の広さを確保する必要がある 時代に見合った新しい施設を設置する場合、財源をどのように確保するのかが、にぎわい創出の鍵が取れるか 公共施設跡地利用のされ方



市民検討会 まちづくりのアイデア 〈図書館敷地中心パターン〉
アイデアの要点
<ul style="list-style-type: none"> 図書館敷地と公園駐車場跡地を一時的に活用し、公共施設を複合化により再整備する（一部の公共施設は駅前の駐車場と合わせて再整備） 公園周辺の開発完成を待たずに、公園内に常設、常設をしのげるような休憩施設（カフェ等）や密が選ばれる屋外には机やベンチを整備する 駅から公園までの道を整備し、公園の入口を真正面に変更する 公共施設の跡地を有効活用する
セールスポイント
どうして？Why・誰が喜ぶ？Who
<ul style="list-style-type: none"> 公園と図書館敷地の有効活用が可能となり、駅利用者利用者同士だけでなく、公園利用者を合わせた交流が広がる 行政の窓口サービスを利用する人が、駅に近い場所サービスを受けることができる 湖野辺駅南口の玄関口としてみずわしい空間ができ、まちのにぎわい創出につながり、地域住民が喜ぶ 施設整備の財源を確保でき、事業の実現可能性が高まり、次世代に過度な負担を発生しない形で引き継ぐことができる
課題
<ul style="list-style-type: none"> 図書館敷地と駅前駐車場を活用するため、仮設施設の建設が必要になる可能性 財源確保（複合施設の建設、公園リニューアル、駅から公園までの道の整備） カフェ等の事業採算性（事業者の確保） 公共施設跡地利用のされ方



市民検討会 まちづくりのアイデア 〈公民館敷地中心パターン〉
アイデアの要点
<ul style="list-style-type: none"> 公共施設は、大野北公民館敷地に集約・複合化し、駅から近いことによる利便性を維持する。 公園は、野球場を多機能スポーツ広場に改変し公園利用者層の拡充を図る。 まちは、駅から公園までの通りの景観を統一することにより、緑地の確保を確保しつつ公園利用者層の拡充を図る。
セールスポイント
どうして？Why・誰が喜ぶ？Who
<ul style="list-style-type: none"> 駅近施設の利便性を維持すると公共施設利用者（特に高齢者層）が喜ぶ。 多機能スポーツ広場にすると野球以外の多くのスポーツ愛好者、地域住民が喜ぶ。 緑地の確保が確保できると地域住民、駅利用者、公園利用者が喜び、公園まで行くためになる者が増える。 図書館敷地を駐車場として整備することで、非常時の防災拠点や成の建て替え時の代替用地として確保できる
課題
<ul style="list-style-type: none"> 公民館を建て替える際の代替地確保が必要 財源（建設費、仮設施設・撤去費等）の確保 公園が抱えている課題（老朽化、安全対策）の解決 駐車場から複合施設までの距離が長くなる（障がい者用駐車場は施設敷地内に確保）



⇒有識者協議会委員からの講評

- 各検討パターンの基本的枠組み（施設配置と動線の概要）及びセールスポイントと課題について整理ができ、各検討パターンの特徴がはっきりしてきた。
- 今後は、各検討パターンの実行可能性について、財政面からの検討を進めていく必要がある。
- 「図書館敷地中心パターン」と「鹿沼公園中心パターン」の折衷案が一番現実的。

市民検討会のこれまでの検討状況（市民アンケート・第11回）

市民アンケート調査（R3.3）

- **4つの検討パターン**のセールスポイントや課題が、市民の方にもどのように受け取られるのか、広く意見を伺い、その結果を今後の市民検討会における議論に活用することを目的として実施した。

＜アンケート帳票に掲載した各検討パターンの概要（代表的な施設配置イメージ）＞

①現在地維持パターン

公共施設を現在の位置でリノベーションや建替え等を行うとともに、鹿沼公園は現在の機能の維持を基本とするものです。



②鹿沼公園中心パターン

公共施設を鹿沼公園内に集約・複合化して再整備を行うとともに、鹿沼公園を一体的にリニューアルするというものです。



③図書館敷地中心パターン

図書館敷地を中心として、公共施設を集約・複合化して再整備を行うとともに、鹿沼公園の機能充実を図るというものです。



④公民館敷地中心パターン

公民館敷地を中心として、公共施設を集約・複合化して再整備を行うとともに、鹿沼公園内の野球場を多機能スポーツ広場にするというものです。



⇒ インターネット調査では、どの検討パターンも回答者の5割以上から共感を得られた。
課題として、どの検討パターンも財政的なことをあげる意見が多く見られた。

第11回市民検討会（R3.6.26）

- 市民アンケート調査の結果や行財政構造改革プランの考え方、今後の進め方を考える際に留意するポイント等を説明



STEP 5 まちづくりの方向性決め

第12回市民検討会（R3.9.19）

○今後の進め方について協議を行い、令和3年12月末までの進め方を決定した。

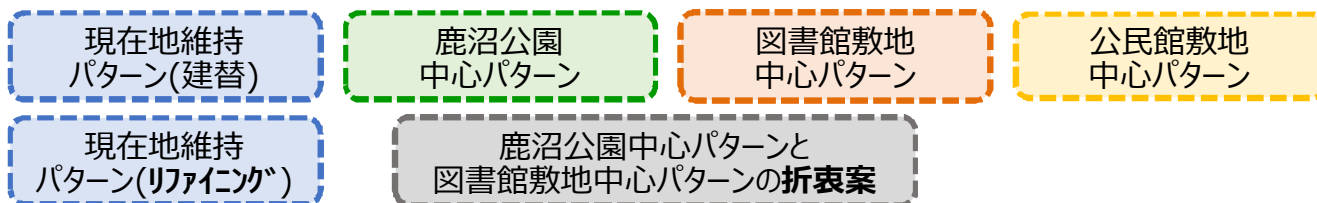
- ⇒本年12月末までに、パターンに関する議論を尽くす。
- より具体的な検討は、次期市民検討会委員に委ねる。

今後、実現可能性を踏まえた検討を行うために、概算事業費、施設利用者・管理者の意見等が必要。



第13回市民検討会（R3.10.24）

○4つの検討パターンの他に、第12回で意見として挙がっていた、「折衷案」と「現在地維持パターン（リファイニング）」を加えた**6つの検討パターン**で、想定事業費の試算を行い共有した。



○検討パターンの絞り込みに必要な評価の視点についてグループワークを行い、第13回市民検討会後に、**6つの検討パターン**について、委員による評価作業を実施した。

市民検討会のこれまでの検討状況（第14回）

第14回市民検討会（R3.11.20）

○6つの検討パターンについて、各委員による評価作業の集計結果を確認した。

評価の視点	現在地維持 (建替)		現在地維持 (リファイニング)		鹿沼公園中心		図書館敷地中心		公民館敷地中心		公園と図書館 折衷案						
	項目評価	総合評価	項目評価	総合評価	項目評価	総合評価	項目評価	総合評価	項目評価	総合評価	項目評価	総合評価					
公共施設	①老朽化への対応	2.3	1.9	2.0	1.8	2.5	2.4	2.6	2.3	2.5	2.3	2.8	2.6				
	②災害時の対応	2.1		2.0		2.5		2.3		2.2		2.7					
	③施設間連携・効率化	1.4		1.5		2.6		2.3		2.3		2.7					
	④活動スペースの確保	1.9		1.9		2.2		2.1		2.0		2.5					
	⑤新たなニーズへの柔軟な対応	1.7		1.6		2.3		2.2		2.2		2.5					
	⑥誰でも利用しやすい	1.9		1.9		2.5		2.3		2.3		2.6					
公園	①防災を重視した機能への対応	2.2	2.3	2.0	2.1	2.5	2.5	2.4	2.4	2.2	2.2	2.7	2.6				
	②安全・安心に配慮した機能への対応	2.3		2.0		2.7		2.4		2.3		2.7					
	③自然環境に配慮した機能への対応	2.5		2.3		2.2		2.3		2.1		2.5					
	④空間、場所を意識させる機能への対応	2.1		2.1		2.4		2.2		2.1		2.6					
まちづくり	①暮らしやすい居住環境の保全	2.1	1.9	1.9	1.8	2.2	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3	2.6	2.6				
	②生活利便性の維持・向上	1.8		1.7		2.4		2.3		2.3		2.5					
	③まちなみの景観の統一などによる魅力の向上	2.0		1.8		2.2		2.1		2.0		2.6					
	④地域のネットワークの形成	1.7		1.7		2.5		2.3		2.3		2.6					
実現に向けた課題	①財源の確保	1.6	1.7	1.6	1.7	2.7	2.5	2.2	2.0	2.1	2.1	2.6	2.3				
	②維持管理・運営コストの削減	1.4		1.5		2.6		2.1		2.1		2.4					
	③市民サービスの継続	1.9		2.0		2.8		2.2		2.3		2.3					
	④建て替え用地の必要性	1.8		1.9		2.2		2.0		2.0		2.2					
	⑤周辺住民への配慮	1.7		1.7		2.2		1.6		1.9		1.8					
		1.9			1.9			2.4			2.2			2.2			2.5

○集計結果を基に、検討パターンの優先順位について、WGごとに分かれて検討した。

- ・公園WG ①「折衷案」
- ・公共施設WG ①「折衷案」 ②「鹿沼公園中心パターン」
- ・まちづくりWG ①「折衷案」 ②「鹿沼公園中心パターン」

○市民検討会全体で、検討パターンの優先順位について意見交換を行った。

⇒「折衷案」が最も優先順位が高く、次が「鹿沼公園中心パターン」であった。

市民検討会のこれまでの検討状況（第15回）

第15回市民検討会（R3.12.12）

○前回までに出了意見を整理した（「折衷案」と「公園中心パターン」で項目評価の結果に差が現れた項目）

評価の視点		評価の視点の説明	鹿沼公園中心	公園と図書館 折衷案
公共施設	①老朽化への対応	厳しい財政状況の中でも、施設や設備の老朽化への対応ができる。		★
	②災害時の対応	災害時の防災拠点としての対応ができる（災害に強い建物、避難スペースの確保等）。		★
	③施設間連携・効率化	施設間の連携や効率的な施設運営ができる。		★
	④活動スペースの確保	現在の利用状況に対して、必要なスペースを効率的に確保することができる。		★
	⑤新たなニーズへの柔軟な対応	現在または将来において、新たなニーズに対して柔軟に対応することができる。		★
	⑥誰でも利用しやすい	施設を利用したことがない人や幅広い世代にとって、利用しやすい施設とすることができる。		★
公園	①防災を重視した機能への対応	公園は地震や風水害時に防災機能の大きな役割を担っており、それが期待できる		★
	②安全・安心に配慮した機能への対応	自転車の分離、夜間に安心して利用できる環境、バリアフリー機能の向上が期待できる		
	③自然環境に配慮した機能への対応	樹木の魅力や質の向上が望める。季節感、ヒートアイランド軽減などの見えない効果が期待できる		★
	④空間、場所を意識させる機能への対応	心身の健康、地域コミュニティ、子育てとしての場や 野球場空間の新たな使い方が期待できる		★
まちづくり	①暮らしやすい居住環境の保全	住宅地として、交通面や児童の通学時における安全が保全できる。		★
	②生活利便性の維持・向上	公共施設や商業施設を利用する際の利便性が維持・向上できる。		★
	③まちなみの景観の統一などによる魅力の向上	駅前や住宅街などとの調和が図れる。		★
	④地域のネットワークの形成	団体間、世代間など多様な地域コミュニティが繋がることできる。		★
実現に向けた課題	①財源の確保	国からの補助金や、跡地の活用益（売却・定期借地）が見込める。	★	
	②維持管理・運営コストの削減	維持管理・運営コストの削減が見込める。	★	
	③市民サービスの継続	工事の際に、必要最小限の経費で、市民サービスが継続できる（仮施設等々の整備が不要等）。	★	
	④建て替え用地の必要性	市有地内に、建て替え用地や工事ヤードの用地が確保できる。		
	⑤周辺住民への配慮	周辺住民に対して、工事中や工事後に与える影響が少ない。	★	

市民検討会のこれまでの検討状況（第15回）

第15回市民検討会（R3.12.12）

○前回までに出た意見の整理（「折衷案」と「公園中心パターン」比較のポイント）

ポイント① 折衷案の評価が高い理由

- 複合施設や駐車場の設置、公園外周道路の拡幅等には、一定の敷地が必要となる。
- 一方、鹿沼公園については、「既存の公園の良さを残したい」という意見もある。

⇒折衷案は、公園に隣接する図書館敷地を一体的に利用することで、公園への影響を抑えつつ、公共施設の再整備等を行えることへの期待から、評価が高かったと考えられる。

ポイント② 図書館敷地の在り方

- 改めて両案を比較すると、図書館敷地を一体的に利用するか否かが、最も大きなポイントとなる。
- 図書館敷地を活用できれば、より多くの土地活用益を見込むことができる。
- 一方、図書館敷地に複合施設を設置する場合、工事期間中の図書館サービス継続のために仮設が必要となり、想定事業費の増加や、サービス休止期間が長くなることが課題と考えられている。

⇒例えば、折衷案として図書館敷地を一体利用する場合で、「**図書館を含めた複合施設**」を鹿沼公園側に設置すれば、図書館敷地に係る土地活用益は見込めないが、サービスの継続など、実現可能性はより高まると考えられる。

公園中心パターン

- 敷地の一体利用ができない
- 図書館敷地に関する活用益が見込める。
- 仮設が不要

折衷案（図書館を含めた複合施設は**鹿沼公園側**）

- 敷地の一体利用ができる
- 図書館敷地に関する活用益が見込めない。
- 仮設が不要

折衷案（図書館を含めた複合施設は**図書館敷地側**）

- 敷地の一体利用ができる
- 図書館敷地に関する活用益が見込めない。
- 仮設が必要

市民検討会のこれまでの検討状況（第15回）

第15回市民検討会（R3.12.12）

○今期市民検討会のまとめについて、3つの班に分かれて検討を行い、全体で確認した。

＜グループワークで出た主な意見＞

- ・ 鹿沼公園と図書館敷地の一体案を推したい。
- ・ これまで6つの検討パターンを検討した中で、まとまったということをきちんと引継ぎたい。
- ・ 細かい検討（施設の配置等）が出来ていないので、次期市民検討委員に具体的な検討をお願いしたい。
- ・ これまで検討してきた内容を引継ぎ、振り出しに戻らないようにしていただき、また、より良いものにするという想いをもって検討をお願いしたい。

⇒**まとめ 「鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用し、再整備を行う。」**

○次期市民検討会委員へ伝えたいことを自由に話しあった。（詳細は、別紙「次期市民検討会委員へ伝えたいこと」参照）

定めた目標に向けて最速最短で進めてください。

次期検討会では1つ1つの事がきちんと説明できる内容づくりを目指して行ってほしい。

淵野辺南口の魅力・ブランドは、駅の近くにある広い公園及び公共施設がそろっていることだと思うので、これらを毀損することなく利便性を高め、さらに、利用する人たちの想いを実現してほしい。

双方向性の議論がなされ、より良い案となるよう、心から願っています。

少子高齢化社会で、子どもと老人が利用しやすい場所・外国人が自然に受け入れられて、共生できる場所を考えてほしい。

地域住民の憩いの場、集いの場、サードプレイスとして考えられる場所となってほしい。

たくさんの想いや願いがある中で優先順位を考えながら、バランスと調和のとれた街づくりができるといいですね。

次世代にどういう淵野辺駅南口を届けたいのか？をいつも念頭に考えていてほしい。

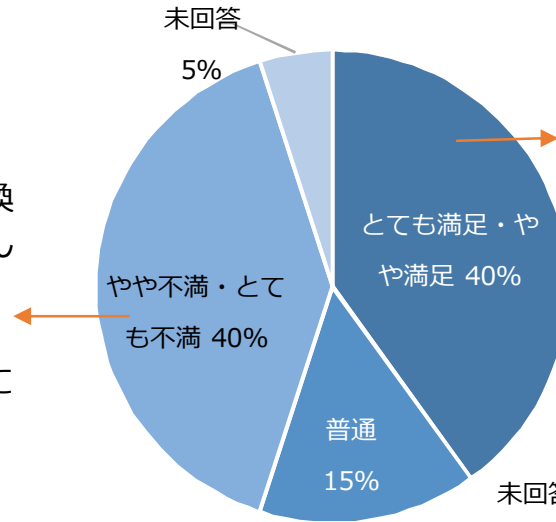


市民検討会委員アンケート（第15回終了後に実施）

○当日欠席の委員も含めて、28人中20人の方から回答をいただいた。

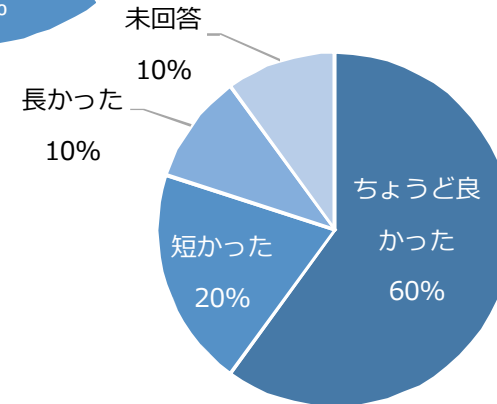
問1 市民検討会全体を振り返り、いかがでしたか。

- コロナ前は、議論は一方通行、検討もなかなか進まず、大変でした。後半は事務局や検討委員の間での意見交換ができるようになり、また事務局からの提案も踏み込んだものになったので（パターン化や概算の算出など）検討が進んで良かったです。
- コロナ禍という条件の悪さもあったが、具体的な提案にまで至らなかった。具体的なところに関わりたかった。
- 当初、3つのWGがもう少しは自立的に活動できるものと想像していましたが、全く違っていました。



- 小グループに分けて話したことで皆さんの声（意見）が聞こえた。
- コロナ禍で思うような開催ができなかった時期もありましたが、リモートやアンケート用紙を用いた形などで検討会を職員の皆様が実施してくださったため。

問2 1回あたりの市民検討会の時間（約2時間半）はいかがでしたか。



- 集中して会議を進行させるには2時間半位が限度かなと思います。

問3 市民検討会の進め方（スケジュールや資料内容）について、あなたの考えに近いものを教えてください。

- 最終的に市政を実行していくのは市職員の方々なので、まずは市の考えを教えてください。市民の意見をお伝えし、議論を深められたらと思います。
- 市の考え方を基盤に（財政面、期間等）市民の意見を聞くべき。検討会をスピード感を持って進める為にも、たたき台は必要。

